

- 1 冬薔薇（ふゆそうび）精一杯の声であり
- 2 風花（かざばな）や波間に唄がありました
- 3 雪降りのうるさきほどの無音かな
- 4 春の雨一円玉の降るように
- 5 額あじさい必要最小限の空
- 6 春の陽に破裂の音を見つけたり
- 7 桜騒（さくらざい）真白き光逃げ惑う
- 8 つばくらめ二羽春昼（しゅんちゆう）の赤き喉
- 9 海に出て何も無い春の何も無い
- 10 老犬は片目を閉じる花曇り（はなぐもり）
- 11 茶を点（た）てるこそばゆき耳すいかずら
- 12 いのち萌ゆ一句一章綿毛飛ぶ
- 13 たんぽぽの残響一輪往ったきり
- 14 フランスパンを割った音から花の闇（はなのやみ）
- 15 句に雨音の遠い近いを染みこます
- 16 雨降れど当てはまらない青がある
- 17 片陰に昨日の君とすれ違い
- 18 エジプトや不感症なる合歓の花
- 19 半夏雨（はんげあめ）お前に拳は二つある
- 20 五七五をポケットに僕が風のために
- 21 白百合の甘さに噎（む）せて指反らす
- 22 忘れるなあ夏の日の独りの音
- 23 桐一葉空の向こうに皆遊ぶ
- 24 瓦濡れて鉄磨かれて昭和だった
- 25 秋の空ぼくらは一人ぼっちの塔
- 26 茶碗洗う夕闇に冬の響きかな
- 27 黒鳥（こくちょう）の翼時雨を搔き寄せる
- 28 カンニングのように雪積む初明かり（はつあかり）
- 29 三月の階（きざはし）薄桃色の空
- 30 牡鹿行くゆつくり春の山となる
- 31 取り返しをつかない闇よ蛙跳ぶ
- 32 一万年の猿の惑星水温む（みずぬるむ）
- 33 春雨は銀の縦糸過疎の村
- 34 少しずつ毀（こわ）れて紫陽花の夢精
- 35 木下闇（こしたやみ）蒼き麒麟の純情とか
- 36 真つすぐになるまで青田青蛙
- 37 ため息を集めては散らす天の川
- 38 鬼やんまの鬼の部分が焼けており
- 39 ヒグラシは正しい悲しみ方で鳴き
- 40 子牛走る十ほど続く真黒き顔
- 41 アオハダトンボ薄羽（うすばね）に痛み引き受けて
- 42 端正なうつむき顔よ桔梗咲く
- 43 皆同じ夕暮れに向かうのに独り
- 44 匿名の街明かり誰も照らせず
- 45 雪の日はただ白一面破裂の白
- 46 知らぬ間に声を揃えた雪椿（ゆきつばき）
- 47 望郷の限定色を寒（かん）という
- 48 春の月猪（しし）重なりて震えおり
- 49 健やかな静けさ竹の青さかな
- 50 風鈴がまた鳴った擦り傷のよう

- 51 如月の雨音冴えて君と僕に
52 すさまじき日差し三月十一日
53 ピアニカ吹く無防備な脚伸びている
54 散りぬるを花に言葉がありました
55 春近しその風は違う道から来た
56 星屑の素直な歌に病んでいる
57 完全な空白と八月の広辞苑
58 橋に雨白い棺が送られる
59 風よやさしい歌ばかりあって人類
60 花びらを千切るのだ砕くのだ鐘鳴る
61 サクランボにぶら下がるばかり許せ神よ
62 プールから健やかな脚戦めく
63 純情の風が溜まって罪となる
64 美しさを罰せよ美しき人々
65 日盛りの蝉がミシミシ鳴いている
66 駆ける二人に大切な雲夏の雲
67 八月二十八日夜、今、鈴虫を聞いた
68 笑顔ばかりあきらめてから梨を剥く
69 誰か死んで君だけ正しくなる三月
70 啄木忌生ハム入りのクラブサンド
71 命(いのち)かたまる五月の吾子(あこ) よどんどん行け
72 その衝動朝焼けという貝になる
73 熟睡の甘柿ひとつ秋時雨(あきしぐれ)
74 桃一玉人の匂いが強くあり
75 秋の道赤鬼の腕が落ちていた
- 76 シリア炯炯(けいけい) 本能のまま指さまよう
77 曼珠沙華恥ずかしい言葉ばかり吐いた
78 アケビ爆(は) ぜる行方不明の責任者
79 稲光おもしろいほど未来の粒
80 風にまみれそのうぬぼれの中心に
81 コンビニの輪郭線が蒼く暮れ
82 正しさという間違いありて初景色(はつげしき)
83 家族かな風の置き場所を定め
84 海はここから冬 暴力の降り注ぐ
85 亡国に仕事を選ぶアメフラシ溢れ
86 ゲリラ巨人がいて豪雨かと思う
87 聖五月人の向こうへぼっぺん吹く
88 青時雨(あおしぐれ) 銀のピアスがよく光る
89 ボウルにはメレンゲ僕には虫取り網
90 見失わないように僕を僕の風上へ
91 不愉快な梯子(はしご) を降りて西へ往く
92 不惑ならば木枯らしと海を取り合わせ
93 どんど火をちぎっては僕、僕らかな
94 また三一一嘘とか双子とか嚙下(えんげ) せよ
95 涅槃西風(ねはんにし) 十年に一度が毎月ある
96 月涼し哀しい嘘で飛ぶ班猫(ハンミョウ)
97 星空に追いつかれるほど泣いていた
98 生きるって苦しい栗を見てもね
99 どこまでも他人事(ひとごと) しゃがんで秋刀魚焼く
100 わが兵を小脇に抱え五輪光る